

ジョセフ・E・スティグリッツ著「スティグリッツのラーニング・ソサイエティー生産性を上昇させる社会―」東洋経済新報社 2017年9月14日刊を読む

## 教育

1. (1) まずは教育である。
  - (2) 想像力を発揮できるように若者を教育すること、および学習方法のラーニングと生涯学習に重点をおく教育システムは、何よりも重要である。
  - (3) 人生の初期段階での学校などの教育機関におけるラーニングに多くの重点がおかれているが、それ以上に職場など、他の場所で行われる教育の方がはるかに重要だ。
  - (4) このような異なる形態の教育の補完性を認識し、そしてお互いに補完的である正規の学校教育制度と職場内訓練制度を合わせて、全体のラーニングを最大化するように計画することが、ラーニング・エコノミーの構築には不可欠である。
2. (1) 正規の学校教育制度で行われるのは、ラーニングのほんの一部にすぎないが、政府は確実に、この学校教育がその後の人生のラーニングのための適切な土台を作るようにしておかなければならない。
  - (2) この2つの関係は、イノベーションのペースが速まり、労働市場が変化し、そして技術が変化すると共に、変わることになる。
  - (3) たとえば、「古い」教育モデルでは、一部には将来のラーニングの基礎として、後の人生で役に立つと教師が思った知識を学生は詰め込まれることになる。
3. (1) 変化のペースが速いため、学校で得た知識は20年後、もしくは10年後には適用できないかもしれない。
  - (2) そして今日では人びとは、教師が優秀な生徒に教え込もうとする知識よりはるかに多くの知識を、インターネットで得ることができるのだ。
  - (3) 教育はラーニングの重点を、このような情報の宝庫にどのようにアクセスし、それをどう評価し理解するかにおく必要がある。
4. (1) 「古いモデル」ではいい企業は職場内訓練を提供した。
  - (2) 従業員の離職率が一般的に低かったので、企業内訓練も利益になった。
  - (3) 現在では離職率が高いため、企業は自分たちが提供した教育や訓練の一部しか専有できない。
  - (4) したがってラーニングの負担は、個人や政府に移らなければならない。
5. (1) 幸いにも、大規模オープンオンラインコース・ムークス(MOOCs)など、高品質かつ無料の教育がインターネットで利用できる新しい技術が開発されている。

- (2) 将来的にこれがどう展開されるかはまだわからないが、このような新しい技術と制度によって、人びとは自らの興味や能力、そして変容する市場の認識に合わせて、自分用のラーニング・プログラムを作り上げることができる。
6. (1) こうしたラーニングについての考え方は、発展途上国の教育に関する考え方に特に深い影響を与えている。
- (2) 「古いモデル」では、効率性と公平性の両方を考えると、すべての人びとに初等教育を提供することを優先させる必要があると主張される。
7. (1) しかし、我々が主張しているように、発展途上国と先進国を分けるものとして、他のどの違いと比べても知識のギャップが同じくらい重要であることは認められている。
- (2) 教育制度はこのギャップを埋めるように計画されなければならない。
- (3) つまり、先進国から知識を吸収するためには、中等教育および高等教育を受けた人びとが十分な数だけいなければならないのである。
8. (1) 初等教育制度でさえ、ラーニングの観点から再設計されるべきだ。
- (2) 基本的な読み書きと計算能力は必要だが、それだけで十分ではない。
- (3) (伝統的な植民地下また植民地後の教育の一部のように) イギリスの過去の王などについて学ぶことは、様々な肥料に関連するリスクや便益を学ぶことほど重要ではない。
- (4) 子どもは、自分たちが生活している環境に関連するスキルを学習しなければならない。
- (5) アフリカの農村部にいるほとんどの人はそのまま農村部に残るので、彼らの教育は、田舎では存在しない都市の仕事のために人びとを訓練するのではなく、田舎の暮らしを向上させることに向けられるべきだ。

P342 ~ 343

#### <コメント>

ノーベル経済学賞受賞のスティグリッツ先生による「生産性を向上させる社会」「社会的厚生を改善」させるために「ラーニング・ソサイエティ」を構築することの大切さと、その具体策を各国政府に向けて政策提言した基本テキスト。

— 2017年9月13日(水) 林明夫 —